

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590700080		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム守山大門 1階		
所在地	滋賀県守山市大門町114		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirvosyoCd=2590700080-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑が広がる自然豊かなでのどかな環境のもとアウトホームで、居心地の良い空間作りをしている。家庭菜園があり、収穫や季節を感じる場、活躍の場として取り組みをしている。地域との繋がり・交流を大切にしていきたいと考えているため、美容室や買い物など積極的に地域の利用をしている。また、事業所から家族や地域に向けた便りの発行や自治会の祭りなどの行事にも参加している。地域の清掃活動へも職員が参加している。地域のボランティアさんにも定期的にきていただき、歌や踊り等をして頂いている。相談員の受け入れ等自治体からの提案を積極的に受け入れている。中学校の職場体験の受け入れも継続に繋がっている。地域交流を一步ずつさらに進めていきたいと考えている。看取り対応については、家族様と十分に話し合い、対応・支援し住み慣れた環境で安心して最期を迎えてもらえるように努めることが出来たと感じている。必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い、考え、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「笑顔」をキーワードに地域の中で関わりを持ち、利用者が笑顔でその人らしく暮らせるよう個々の思いを大切にされた支援に努めています。思いに添った個別外出や地域行事への参加、歌や手品等のボランティアや中学生との交流の他、食材の買い物や日々の新聞取り、菜園では利用者に教わりながら野菜を育てたり、楽しめるゲームの工夫等も行い利用者を中心とした暮らしの中で多くの笑顔に繋がるよう支援に取り組んでいます。また地域とも良好な関係を築き利用者の暮らし振りや行事等の取り組みを載せたホーム新聞を家族への配布と共に地域に回覧や掲示してもらい情報を発信し、ホームへの理解や更に交流が深まるよう取り組んでいます。また看取り支援についても医師や看護師のアドバイスを受けながら職員間で連携し、意向に添った支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会の理念に基づき、自事業所理念を作り、「まんまる笑顔」を大切に、「家」というキーワードで個々の利用者様のニーズに対応できるように努力している。	笑顔をキーワードにした独自の理念を利用者や交流している中学生と一緒に色紙に書き、玄関やフロアの目につく場所に掲示し日々意識できるようにしています。利用者や職員共に多くの笑顔が見られるような支援に努めると共に利用者の立場に立ってケアを考え、家での過ごし方などを知り、思いに添った暮らしに近づくよう会議やカンファレンスで話し合い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。自治会の夏祭りなどの行事に利用者様と参加したり、地域の清掃活動に職員が参加したりとできる限り地域と繋がれるように努めている。	買い物などは近隣の店舗を利用し、散歩時などに出会った方と挨拶を交わしています。隣の神社から祭りの案内が届き参加したり、地域の祭りにはお供えし、御輿の披露がホーム前であり利用者も見学しています。歌や踊り、手品などのボランティアの来訪の他、中学生の職場体験を受け入れ交流を楽しんでいます。また新たにホーム新聞を地域に掲示や回覧できるようになり情報を発信しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや行事などに利用者と共に参加すること、買い物や美容院なども近くのところへ行くことを心がけ、職員ともども顔見知りの関係を築けるように努め、関係性を築いていけている。昨年度より中学生の職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実践内容や、現状や行事報告をしている。身体拘束についても話の機会を持っている。少しでも家族様に参加して頂けるよう毎月の便りで案内を行っている。自治会長様の参加はあり意見交換、状況報告などしている。ご家族様の参加が一回あり貴重なご意見・提案があった。	会議は家族の参加しやすい日を工夫して開催し、家族や町内会長、市職員等の参加を得ています。行事の写真を見てもらいホームの状況や行事、事故等の報告を行い意見交換しています。家族アンケートの結果についてアドバイスをしたり、参加者の提案を受けホームの菜園で採れた野菜を地域の祭りで販売を予定する等、サービスの向上や地域交流に繋がる有意義な会議となっています。	家族の参加が困難な状況となっています。参加しやすい日を検討していますが、加速が知りたい情報を取り入れるなど引き続き参加が得られるよう取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	守山市とは、運営推進会議を通して、地域の情報交換や、事業所の運営状況の報告をしている。相談員派遣の受け入れをしている。	運営推進会議には市職員の参加を得ており、情報交換を行うと共に取り組み状況を把握してもらっています。分からない事は随時問い合わせアドバイスをしたり、感染や災害に関する注意喚起のメールや見学などの問い合わせに応じるなど良好な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人内で全事業所あげて研修を行い禁止に努めている。毎月のカンファレンスや運営推進会議でも話し合いを行っている。なお玄関の施錠は、防犯上19時に施錠している。センサー対応の方についてはカンファレンスにて話し合いを行っており解除となった。	年に2回身体拘束に関する研修を行い職員はレポートを提出したり、会議時にも議題に上げ具体的に話し合うと共に不適切ケアの資料やチェックリストも活用し職員への浸透に努めています。出入り口のチャイム対応や見守りの為のセンサー使用の弊害についても問題意識を持ち、本人の立場に立って家族等と話し合いセンサーを解除したり拘束感を感じないような支援に努めています。	

洛和グループホーム守山大門 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、全事業所をあげて、研修を行うなど、職員個々の意識向上を行っている。身体拘束と合わせて話し合いなどを行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、法人内で、成年後見制度のについての研修をおこない、知識の共有を図っている。利用者の中にも成年後見制度を利用している方がおられ玄関にパンフレットなど置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、説明を行い、疑問点や不安については、お尋ねし、解消できるように努めている。また、介護報酬改定による変更点などもその都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には直接的な言動の他、些細な変化から思いをくみ取れる様努めている。家族からは満足度アンケートを行い、意見を聞き、満足度向上に繋げている。面会時にこちらから不明点や気になること等出来る限り伺うように努めている。各フロアの玄関に、ご意見箱を設け、随時ご意見を聴く体制を整えている。	利用者の希望は関わりの中で聞き、好みの献立や外出行事などに反映しています。家族からは来訪時にコミュニケーションを図る中や年に1度満足度アンケートを行い意見を収集しています。家族の意見を受けて洗濯物の間違いの防止や接遇マナーの向上などについて職員間で話し合い、サービスの向上や業務改善に繋げています。また取り組み状況は書面で家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行うと共に、会議や面談を通じて、職員の希望を吸い上げ、上長に報告・相談している。また日頃からできるだけ声をかけ話し合いを言ってもらえるように努めている。職員に対しても、満足度調査を実施している。また、必要に応じて話をしたり面談も行っている。	職員の意見は日々の業務の中や月に1度のフロア毎のミーティング等で聞いており、年に1度の全体会議では職員の意見を聞きながら方向性を話し合い決めています。ミーティングでは事前に職員に意見を募るなど職員が意見を出しやすいよう工夫し、業務改善や個別ケアなどについて話し合っています。また年に2度の個別面談や職員の様子を見て随時話を聞く機会も作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の力量評価・面談を行うと共に、適切に職員自身を見極める様に努めている。個々に役割を持ってもらう、強みを活かし仕事を任せる等向上心など持てるように努めている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を設け、個々の力量に応じた研修を受け力量アップにつなげている。また、事業所内での指導・勉強会や内外問わずできる限り研修への自主的な参加を実施している。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とはブロック会議や研修を通じて相互研鑽の場としている。外部では研修を通じての交流を図り、情報共有や学びの場としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人や家人から、これまでの生活やこれからの生活への思いや要望を聞きだすように努めると共に、不安もしっかりと受け止め、安心できるサービス提供を行っている。信頼関係作りにも努めている。また入居前面談の本人の言葉や情報などカンファレンスや書面にて職員にも伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の思いも聞き取り、要望については叶えられるように支援していく。また、GHでできるサービス内容も説明し、できないこと、家族の協力を得なくてはいけないことについても、しっかりと説明を行う。また入居前面談の情報などカンファレンスや書面にて職員にも伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、家族やケアマネ、相談員と相談して、その方にあったサービス利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を含め、生活全体で、共に支え、共に生きることを念頭において関わっている。利用者と職員は人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。利用者同士の支えあいもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係作りにも努めている。面会にも多数来ていただいており、一緒にゆっくりと過ごせる環境作りにも努めている。ホームの行事に参加していただいたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人・親戚、馴染みの美容室、店、主治医など、本人がこれまで付き合ってきたなじみの関係を大切にできるようにしている。外出の支援や電話・面会の支援を行い、いつでも快く出迎えするように心掛けている。	自宅や墓参り、馴染みの美容室、通っていた複合施設等へ利用者の思いに添って職員が付き添い出かけています。友人や親戚、近所に住んでいた方等の来訪もあり、居室やリビング等の過ごしたい場所でゆっくり過ごせるよう配慮をしています。また家族と共に正月に自宅に戻ったり、親戚の集まる法事や冠婚葬祭に出かける方もおり、家族に本人の状況を伝えたり、車いすの準備をする等、スムーズな外出に繋がるよう支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに支えあったり、お互いをいたわりあっている。生活を共に過ごす者同士、当たり前の関わりが出来る様、時に職員が間に入りながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	力になれることがあれば、相談や支援していけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時だけでなく、日ごろの本人との関わりの中から希望を聞き、感じ取り、思いをくみ取るようにしている。職員ひとりひとりが意識している。チーム内での情報共有に努めている。カンファレンスやC1-2シート等を活かし、本人の思い・気持ちや今後の関わり、対応につなげている。	入居前に利用者や家族を訪問し、暮らしへの意向や生活歴、趣味などを聞きアセスメントにまとめ、別紙には聞き取った言葉をそのまま記録して職員間で共有し意向の把握に繋げています。入居後は利用者の言葉を記録したり、全職員が気付きを書いた振り返りシートやアセスメントを集約し、カンファレンスで話し合い意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、入居前の関わり、本人や家人との話を通じて、把握に努めている。本人や家族の言葉を大切にしている。センター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の個々の状況や状態把握に努め、変化に早く気付けるように対応している。チームとして日々情報共有に努めている。訪看や医師、歯科医との連携を出来る限り図っている。C1-2シートや振り返りシートを活用し、本人の状態や思い、今後の関わりにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人の言葉や思い、家族に要望を聞いたり、医療関係者からの意見を入れると共に、職員の日々の関わりからの意見交換を行い、より個々の生活ニーズ、現状に即したプランを立案している。	介護計画はアセスメントの基カンファレンスを開き、希望記入用紙を用いて事前に確認した本人や家族の希望、医師や看護師の意見などを反映し作成しています。変化の無い場合は1年毎に計画を見直していますが、状態が不安定な場合は短い期間を設定したり、入居当初は3ヶ月、その後6ヶ月で見直しています。いずれも中間で1度モニタリングを行い計画の実施状況や現状に即しているかを確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に残し、職員全員で、把握・共有している。また、申し送りやカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しに活かしている。C1-2シートについてもケアプランに活かしている。		

洛和グループホーム守山大門 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズにできる限りタイムリーにこたえられるように、「家ではどのようにされていたのだろうか」など職員の意識統一を図っている。介護職としての専門性や、グループホームのメリットを活かし、そのときその時の状況に応じて対応できるチームを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのなじみの関係が築けるように、地域のお店等とのかかわりを大切にしている。地域のボランティアさんに来てもらい、活動・関わり等から本人にとっての能力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、随時(夜間など)電話での対応や指示を行っている。また、専門科への受診や家族より希望があった場合等も受診につなげ連携に努めている。	かかりつけ医を継続している方や専門医を受診する場合は家族が付き添い、家族が行けない場合は職員が付き添っています。フロア毎に協力医があり、いずれも24時間連絡が可能で2週間に1度往診を受けています。体調不良時は訪問看護師の指示をもらい対応したり、近隣の協力医は臨時の往診をしてもらうこともあります。定期的に訪問歯科のチェックを受け、必要や希望に応じて治療や口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度の訪問で、日々の健康状態について、相談し、指示を得ている。また、訪問以外でも随時、電話での相談や対応体制をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とGHが情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、GH管理者などで話し合いの場を持ち、状態把握などの情報収集や早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針・看取り指針があり家族に説明している。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。本人にとっての生活を大切に考えチームで支援している。今年度1名看取りを実施している。	入居時に終末期のホームの対応について説明しています。重度化した場合は家族や医師、訪問看護師を交えて話し合い方針を決め、支援の際は職員が取り組めるよう個々の対応について細かく文書化したり、医師や看護師、管理者へいつでも連絡が取れる体制を整えています。職員は医師や看護師に指示をもらい、家族には面会を増やすなどの協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時及び定期的に全職員が普通救命講習を受け、対応できるようにしている。また、急変時のマニュアルの把握も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な防災訓練を行い、年に2回は消防立会いのもとでの訓練を行っている。事例からの学び、避難方法や通報の仕方などを確認できる場を持ち、意識も高めている。災害についても地域の避難場所や行政の支援情報などの確認をしている。	2ヶ月に1度防災訓練を行い、内2回は消防署立ち合いの下、昼夜を想定し通報や避難誘導、消火訓練等を行っています。独自では階段を使用して車いすの避難誘導を行ったり、水害や土砂災害マニュアルの見直しや避難場所の確認などを行っています。運営推進会議で訓練の案内や報告、協力を依頼し、今後具体化したいと考えています。水や懐中電灯、衛生用品などを準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応など一人の人であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、個々を大切に対応している。ただしあまり堅苦しくないように、対応・関わりを心掛けている。トイレや入浴など、プライバシーに関わる言葉掛けを特に留意している。職員同士の会話なども、個人のプライバシーに配慮している。	接遇やプライバシーに関する研修を行い、利用者は人生の先輩としての意識を持った言葉遣いや状況に応じた対応を心がけています。言葉遣いや接遇マナーも含まれるチェックリストを用い日頃の対応を振り返っています。不適切な対応が見られた場合は管理者や職員間でも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や他利用者との会話の中で、本人が答えやすいように本人の思いや希望を聴きだし、できる限り叶えられるように支援している。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の個々のペースに応じてできる限り対応している。そのときの本人の希望や思いを尋ね、関わってけるように支援している。相手の立場に立って考えるように努めている。一人ひとりのペースや希望にそった支援を心掛けているが、業務に追われていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服、好きな髪型、お出かけ時のおしゃれなど、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。一緒に買い物へ行き本人の好みものを選んでもらったりしている。美容室は入居前からの馴染みの店があるため行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時に食べたいものを聞いたり、献立と一緒に考えたり、食事作りもできる限り、本人ができることを共に行う事を意識して、取り組んでいる。テーブル拭きや食器洗い、食器拭きなどの後片付けも一緒にしてもらっている。	利用者と広告を見たり、お節料理や恵方巻等の行事食も考慮して献立を決め、週に2~3回利用者と買い物に行き食事作りをしています。利用者は盛り付けや下膳等のできる事に携わってもらい、職員と共に食事を摂り和やかな食事時間となっています。行事や敬老会は家族と外食したり、誕生日は希望の献立や外食に出かける他、クッキーや善哉等のおやつ作りも楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方には、随時、水分をすすめたり、自席ですぐに飲めるように前に置いている。食事形態の検討や食事量の少ない方には食べやすいゼリーなどや栄養補助飲料など提供している。食事摂取は摂取量をチェックシートに記録している。箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなど本人の状態を考えて支援している。		

洛和グループホーム守山大門 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には、口腔ケアの声かけを行い、磨き残しがないかなど支援している。また、訪問歯科医師や歯科衛生士のケアを受ける機会をもち、アドバイスを受けている。(希望者)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄リズムを職員が把握し、声かけが必要な方には、随時さりげない声かけを行い、プライバシーの確保にも留意している。リハビリやパットの交換が自力では困難な方には職員が支援している。来り限りトイレで排泄が出来るように支援している。	排泄の記録からリズムを把握したり、本人の様子などを見ながら個々に合った間隔でトイレに行けるよう支援し、おむつを使用している方も日中ではできる限り二人介助でトイレに座り、排泄ができるよう支援をしています。排泄に関する職員からの意見も多く出されており、支援方法や排泄用品については複数の種類を試し、家族の負担も考慮し本人に合った選択ができるよう検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトやヤクルトを提供したり、食物繊維の多いもの取り入れるなど、食事の工夫をしたり、体操や歩行・足踏み体操など生活の中に取り入れ、運動の機会も大切にしている。必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や希望など、個々の利用者の希望に沿って提供できるように努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ていない。コミュニケーションやタイミングなど誘い方の工夫を行い、環境面も含めできる限り快適で楽しく入浴できるよう心掛けている。無理強いはしないようにしている。	入浴の時間や回数は特に決めておらず、週に2回を目途に毎日午後から声をかけ入ってもらい、希望で回数を増やすこともあります。季節の柚子や菖蒲湯をしたり、希望があれば午前中や夜間についても検討する予定としています。また重度の方も職員体制によってはできる限り二人で介助し湯舟に入ってもらっています。入浴拒否が見られた場合は時間を変えたり、声のかけ方を工夫し、無理の無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れなかった方には日中の休息時間を大切にしたりしている。本人の体力や体調に合わせて午前午後の臥床もしている。また、夜間もできる限り安心して眠っていただけるよう、室温や声かけ、巡視時の対応に留意している。畳部屋やソファベッドの利用もできる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬表を各職員が参照し、理解を深めることに努めている。服薬が困難な方は主治医と相談し対応している。変化が見られた場合は医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には料理や洗濯物や掃除など、家庭菜園や花の世話、歌、ピアノ、教合わせなど、個々の得意な事を引き出し、継続できるように日々生活の中に張り合いや喜びがあるように支援している。気分転換に、散歩や買い物、ドライブなどにも出かけている。		

洛和グループホーム守山大門 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合にはできる限り、外出の支援が出来るよう心がけている。人間的な理由などにより、全ての希望に添えているとはいえないが出来る限り希望に添えるように努めている。買い物やドライブなどお誘いし外出に繋げている。個別外出では本人の行きたいところや行ってみたいところなど要望を聞いて外出している。	気候の良い時は散歩に出たり、テラスや駐車場で外気浴や畑の作物の水やり等を行い外気に触れる機会を作っています。また日々の新聞を取りに行く他、薬の受け取りや買い物等と一緒に掛けたり、年間を通して初詣や桜の花見ドライブ、敬老会は家族にも声をかけ外食等に出かけています。また墓参りに付き添うなど利用者の思いに添った個別外出にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。金庫で預かっているが、外出時に希望がある場合は対応している。個人で財布を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には家人や知人への電話や、ハガキ・手紙のやり取りを支援している。知人からもはがきが届いたりし、遠方の方ともコミュニケーションが図れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節の飾りつけや作品を飾ったりし季節感を出せるように心掛けている。写真も掲示している。温度・室温もエアコンや換気を行い、利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量についても字幕を出したり配慮した空間づくりを心掛けている。リビング内の配置の検討や一人になれる空間も作りもしている。テラスも活用している。	庭に面し明るい共用空間は多くの花を活け正月等の飾り付けや行事の写真、書道等も飾り、季節感のある温かい雰囲気作りをしています。テレビの前や廊下の奥に寛げるソファを置いたり、段差のない和室は利用者が休めるスペースに利用しています。利用者の関係を見てテーブルの配置を変えたり、温湿度計の確認の他、利用者の声を聴き室温を調整したり、エアコンに風除けを付ける等過ごしやすきよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、ソファやテーブル席を離したりと配置を検討し、居室以外にもほっこりできる空間を提供している。生活の中で自然と動きがあるように空間の工夫をしている。また外にベンチを置き過ごせるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭からなじみの家具や大切なお仏壇などを持ち込んでいただいたり、趣味で制作した作品を飾ったり、家族との写真を飾ったりと、本人や家族と相談しながら、今までの環境に近づけるよう、居心地の良い空間作りにも努めている。	利用者が安心して過ごせるよう馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えています。筆筒や机と椅子等の他、冷蔵庫を持参する方もおり、家族と今までの環境を考えながら配置を決めています。また裁縫道具や持参した電子ピアノを弾いたり、新聞を読む方もおり落ち着いて過ごせるよう支援しています。濡れタオルで乾燥に配慮し、できる方と一緒に掃除を行い清潔な環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること・できないことの把握に努め、職員がやってしまうではなく、できる限り、できることはしてもらい、できないところはさりげなく支援を行っている。自主的にやるよう工夫している。(洗濯物、掃除や新聞取り)		